

2.3 応用生命科学専攻

1. 専攻の概要

応用生命科学専攻は、農芸化学専攻（1924年設置）、食品工学専攻（1967年設置）および農薬研究施設（1963年設置）を統合して1997年に設置された。その後2001年の組織改編によって食品生物学専攻が分かれ、現在では大学院農学研究科の11研究分野に、2附置研究所の5分野（化学研究所の2分野および生存圏研究所の3分野）を加えた16研究分野で構成されている。さらに、応用微生物学に関する2つの寄附講座（農学研究科所属と京都大学所属）とも緊密な関係を築いて教育・研究を行っている。本専攻は、微生物、動物、植物を対象とし、物理化学、無機化学、有機化学、生化学、分子生物学、細胞生理学などの手法を用いて、生物の機能や生命現象を分子や細胞のレベルで解明することを目的にしようとする基礎研究に取り組んでいる。さらにその成果を、農業生産、有用物質生産、環境保全などにかかわる新しいバイオテクノロジーの開発に結びつけていくための教育と先導的な研究を行っている。

2. 学生数

大学院修士課程1回生	62 名
大学院修士課程2回生	68 名
大学院博士課程	44 名